

2016年10月下旬
発売

秋田・廃村の記録

～人口減時代を迎えて

著者 浅原昭生 Team HEYANEKO
代表
林 直樹 金沢大学人間社会研究域
人間科学系准教授

発行 秋田ふるさと育英会
発売 秋田文化出版
シリーズ 秋田ふるさと選書 6
定価 1,650 円（10%税込）

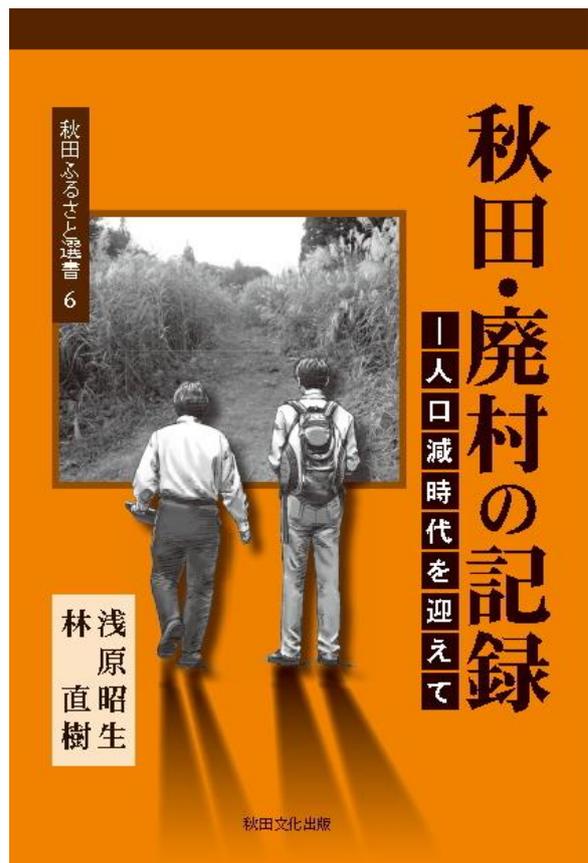
四六判・208 ページ

ISBN4-87022-572-5

戦後、さまざまな理由から、数多くの集落が廃村となって、地図の上から、記録から、人々の記憶から消え去っていった。

だが、住民がいなくなった、すべての廃村が野に還ったのだろうか……。調査の結果から見えてきた意外な事実とは。

名著『秋田・消えた村の記録』を基として、日本全国の廃村調査をライフワークとする浅原昭生が気鋭の研究者林直樹とともに県内 69 か所の廃村を調査し、考察を加えた意欲的な報告書。



《目次》

- まえがき～人口減時代を迎えるにあたって（浅原）
 - 本調査の学術的な意義（林）
 - 研究・調査の概要および凡例
 - 県北東部（折戸、合津など全 24 集落）
 - 県北西部（名不知、申川など全 16 集落）
 - 秋田市＋県南西部（福田、袖川など全 6 集落）
 - 県南東部（湯田、雨沼など全 16 集落）
 - 県番外（大野岱、手代沢など全 7 集落）
 - 県外（川上、峰、本之牟礼など全 8 集落）
 - 旅行記（1～12 日目）
 - 「廃村の調べもの」18 年を振り返る（浅原）
 - あとがき～移転地の状況の考察とあわせて（浅原）
 - お二人の活躍に期待（佐藤晃之輔）
- 印：本編 62 か所